# 伊賀上野長田川筋城州笠置迄川絵図

維新前民政資料は、日露戦争後の全国的な地域作り運動の一環として、京都府が明治 44～45 年（1911～12）に明治維新以前の住民の生活を調査したものです。その中で、参考になるものについては写しを作りました。この図もその一つで、木津川の上流にあたる長田川（伊賀川）の長田（三重県伊賀市）から笠置（京都府相楽郡笠置町）までの絵図を写し取っています。全 3 巻。

実際には屈曲している川を展開図の技法でまっすぐに描き、川の状況と両岸の情報を書き込んでいます。画面で収まらないところは折り込みの貼り紙も多用しています。縮尺は約 600 分の 1 です。色彩は、水を青色、岩を茶色、山を緑色系統とし、墨色や白色を使って濃淡をつけています。文字は黒字を主とし、朱字もあります。

川の描写は、流れの変化に沿って方位（干支による表記）を示し、朱の丸印で距離を表しています。淵、瀬、浅瀬、瀧などの流れの違いを図や文字により表し、岩、岩場、砂浜、洲、人工堰なども図や文字により描き入れています。船運に関しては、数ヵ所の渡し場、浜、「古舟路」「筏みと」「古川筋」の注記、「藤堂家船小屋」の建物、船の図などが描き込まれています。

この絵の原図は、角倉玄信が文化 8（1811）年に伊賀川の通船を再興するために絵師の速水春暁斎に描かせて領主の藤堂家に提出した際に角倉家に残された複本を模写したものです。維新前民政資料では、3 冊目の後半に長田川舟運に関する他の文書類の写しも加えています。

資料ガイド No.9

維新前民政資料 75

伊賀上野長田川筋

城州笠置迄川絵図

（部分）

(2015 年 12 月 25 日公開)